



平成30年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年1月31日

上場会社名 日本化薬株式会社
 コード番号 4272 URL <https://www.nipponkayaku.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 鈴木 政信
 問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 グループ経理本部経理部長 (氏名) 武内 直彦 (TEL) 03-6731-5842
 四半期報告書提出予定日 平成30年2月9日 配当支払開始予定日 ー
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年3月期第3四半期の連結業績(平成29年4月1日～平成29年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年3月期第3四半期	124,799	5.9	18,132	18.0	18,520	17.9	12,969	19.5
29年3月期第3四半期	117,885	△2.7	15,371	△7.1	15,707	△3.6	10,852	△35.3

(注) 包括利益 30年3月期第3四半期 20,920百万円(82.6%) 29年3月期第3四半期 11,456百万円(△43.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年3月期第3四半期	74.90	74.89
29年3月期第3四半期	62.61	62.59

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
30年3月期第3四半期	286,830	220,944	72.7
29年3月期	272,791	205,866	71.1

(参考) 自己資本 30年3月期第3四半期 208,607百万円 29年3月期 194,062百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年3月期	—	12.50	—	17.50	30.00
30年3月期	—	15.00	—	—	—
30年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年3月期の連結業績予想(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	168,500	5.9	22,000	12.0	22,500	12.8	15,500	△0.9	89.52

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）： 無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更： 無

② ①以外の会計方針の変更： 無

③ 会計上の見積りの変更： 無

④ 修正再表示： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

30年3月期3Q	182,503,570株	29年3月期	182,503,570株
----------	--------------	--------	--------------

② 期末自己株式数

30年3月期3Q	9,357,164株	29年3月期	9,346,782株
----------	------------	--------	------------

③ 期中平均株式数（四半期累計）

30年3月期3Q	173,150,849株	29年3月期3Q	173,332,758株
----------	--------------	----------	--------------

※ 四半期決算短信は四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、本資料の発表日現在において入手可能な情報及び将来の実績に与える不確実な要因に係る本資料発表日現在における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）の世界経済は、総じて緩やかな回復基調が続きました。米国では着実な個人消費と設備投資の増加が続き、欧州では政治情勢を巡る先行き不透明感があるものの、輸出の増加等を下支えに回復基調を維持しました。中国では設備投資が堅調に推移する等底堅い成長が続きました。日本経済は、企業収益の改善を背景に雇用・所得環境の改善が持続し、緩やかな回復基調にありました。

このような状況の中、当社グループは平成28年度よりスタートさせました中期事業計画“*Take a New Step 2016*”の重点テーマと中長期重点課題に取り組み、研究開発の強化、重点事業への経営資源の最適配分、海外事業の拡大に加え、収益体質の強化を目指し、一層のコストダウンを推進しました。

この結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は、機能化学品事業、医薬事業及びセイフティシステムズ事業が前年同四半期を上回ったことにより、1,247億9千9百万円と前年同四半期に比べ69億1千3百万円（5.9%）増加しました。

営業利益は、売上高の増加等により181億3千2百万円と前年同四半期に比べ27億6千万円（18.0%）増加しました。

経常利益は、為替差損の減少等により185億2千万円となり、前年同四半期に比べ28億1千3百万円（17.9%）増加しました。

親会社株主に帰属する四半期純利益は、129億6千9百万円と前年同四半期に比べ21億1千6百万円（19.5%）増加しました。

セグメントごとの業績は次のとおりであります。

【機能化学品事業】

売上高は、492億7千7百万円と前年同四半期に比べ17億6千6百万円（3.7%）増加しました。

機能性材料事業は、海外向けエポキシ樹脂が堅調に推移し前年同四半期を上回りました。

色素材料事業は、繊維用染料及び紙用染料が前年同四半期を下回ったものの、産業用途のインクジェットプリンタ用色素及び感熱顕色剤が前年同四半期を上回り、色素材料事業全体では前年同四半期を上回りました。

触媒事業は、前年同四半期を下回りました。

ポラテクノグループは、産業用や車載用LCDパネル向け偏光フィルム及びX線分析装置部材が堅調に推移し前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は、62億8千2百万円と前年同四半期に比べ16億6千3百万円（36.0%）増加しました。

【医薬事業】

売上高は、372億1千8百万円と前年同四半期に比べ9億2千1百万円（2.5%）増加しました。

国内向け製剤は、バイオシミラーの「インフリキシマブBS点滴静注用」（抗体薬）、「フィルグラスチムBS注」（がん化学療法支持療法薬）が伸長しました。国内向け製剤全体では、ジェネリック医薬品への切り替えによる影響で、長期収載品が前年同四半期を下回ったものの、「オキサリプラチン点滴静注液」（抗がん薬）等の新製品が寄与し、前年同四半期を上回りました。

輸出は、エトポシド類（抗がん薬）が前年同四半期を上回ったものの、プレオ類（抗がん薬）、高薬理活性原薬が前年同四半期を下回り、輸出全体では前年同四半期を下回りました。

国内向け原薬及び診断薬は、前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は、59億6千2百万円と前年同四半期に比べ13億7千1百万円（29.9%）増加しました。

【セイフティシステムズ事業】

売上高は、324億2百万円と前年同四半期に比べ41億3千7百万円（14.6%）増加しました。

国内事業は、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータとも前年同四半期を上回りました。

海外事業は、北米・欧州・中国市場が堅調だったことに加え、新興国における自動車安全部品への需要拡大等により、エアバッグ用インフレーター、シートベルトプリテンショナー用マイクロガスジェネレータ及びスクイブは前年同四半期を上回りました。

セグメント利益は、53億1百万円と前年同四半期に比べ3千7百万円（0.7%）増加しました。

【その他】

売上高は、59億1百万円と前年同四半期に比べ8千8百万円（1.5%）増加しました。

アグロ事業は、輸出が前年同四半期を下回ったものの、国内が前年同四半期を上回り、アグロ事業全体では前年同四半期を上回りました。

不動産事業他は、前年同四半期を下回りました。

セグメント利益は、8億8千9百万円と前年同四半期に比べ1億1千6百万円（11.6%）減少しました。

（2）財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

総資産は2,868億3千万円となり、前連結会計年度末に比べ140億3千8百万円増加しました。主な増加は受取手形及び売掛金65億7千9百万円、投資有価証券46億1千5百万円、有形固定資産33億3千1百万円、たな卸資産29億6千9百万円、のれん12億3千2百万円であり、主な減少は現金及び預金46億1千2百万円であります。

負債は658億8千5百万円となり、前連結会計年度末に比べ10億3千8百万円減少しました。主な減少は長期借入金36億4百万円、未払金21億7百万円、未払法人税等9億9千2百万円であり、主な増加は支払手形及び買掛金29億6千7百万円、短期借入金19億5千1百万円であります。

純資産は2,209億4千4百万円となり、前連結会計年度末に比べ150億7千7百万円増加しました。主な増加は親会社株主に帰属する四半期純利益129億6千9百万円、為替換算調整勘定42億4千3百万円、その他有価証券評価差額金25億4千8百万円であり、主な減少は配当金の支払56億2千7百万円であります。

（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後の当社グループを取り巻く経営環境は、世界経済は米国や欧州では引き続き堅調に推移することが期待されるものの、政治情勢を巡る先行き不透明感の高まり等により景気の下振れが懸念されます。日本経済は雇用・所得環境の改善が続く中で、緩やかに回復することが期待されるものの、世界経済の下振れの影響に留意する必要があります。

このような状況において、当社グループは事業環境の変化に対応できる強固な財務体質を構築するとともに、グローバルな成長市場で既存ビジネスの拡大と新事業・新製品の展開を加速させ、収益の拡大を図ってまいります。

なお、通期の業績予想につきましては、平成29年11月8日に公表いたしました予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	44,596	39,983
受取手形及び売掛金	46,551	53,131
電子記録債権	1,096	1,546
有価証券	7,634	7,645
商品及び製品	25,038	26,671
仕掛品	2,030	1,824
原材料及び貯蔵品	18,021	19,563
その他	8,653	7,889
貸倒引当金	△20	△12
流動資産合計	153,602	158,244
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	38,897	38,979
機械装置及び運搬具（純額）	24,271	25,478
その他（純額）	17,060	19,103
有形固定資産合計	80,230	83,561
無形固定資産		
のれん	553	1,786
その他	1,822	1,869
無形固定資産合計	2,375	3,656
投資その他の資産		
投資有価証券	32,202	36,817
退職給付に係る資産	1,654	1,792
その他	2,666	2,717
貸倒引当金	△28	△27
投資その他の資産合計	36,494	41,299
固定資産合計	119,100	128,517
繰延資産	87	68
資産合計	272,791	286,830

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	13,782	16,750
短期借入金	6,306	8,257
未払金	11,657	9,549
未払法人税等	2,410	1,417
その他	7,164	7,891
流動負債合計	41,321	43,866
固定負債		
長期借入金	8,201	4,596
環境対策引当金	1,540	986
退職給付に係る負債	487	490
その他	15,373	15,945
固定負債合計	25,603	22,019
負債合計	66,924	65,885
純資産の部		
株主資本		
資本金	14,932	14,932
資本剰余金	17,587	17,600
利益剰余金	162,615	169,957
自己株式	△10,471	△10,488
株主資本合計	184,664	192,001
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,652	14,200
為替換算調整勘定	△566	3,677
退職給付に係る調整累計額	△1,688	△1,271
その他の包括利益累計額合計	9,397	16,605
非支配株主持分	11,803	12,336
純資産合計	205,866	220,944
負債純資産合計	272,791	286,830

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	117,885	124,799
売上原価	70,623	75,012
売上総利益	47,262	49,787
販売費及び一般管理費	31,890	31,655
営業利益	15,371	18,132
営業外収益		
受取利息	65	67
受取配当金	589	621
持分法による投資利益	361	308
その他	495	589
営業外収益合計	1,513	1,586
営業外費用		
支払利息	124	138
為替差損	683	299
環境対策引当金繰入額	—	415
その他	369	344
営業外費用合計	1,176	1,197
経常利益	15,707	18,520
特別利益		
固定資産売却益	590	2
特別利益合計	590	2
特別損失		
固定資産処分損	566	274
減損損失	31	—
特別損失合計	597	274
税金等調整前四半期純利益	15,700	18,249
法人税、住民税及び事業税	3,578	4,550
法人税等調整額	674	142
法人税等合計	4,252	4,692
四半期純利益	11,448	13,556
非支配株主に帰属する四半期純利益	595	587
親会社株主に帰属する四半期純利益	10,852	12,969

四半期連結包括利益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	11,448	13,556
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	704	2,544
為替換算調整勘定	△1,018	4,390
退職給付に係る調整額	322	425
持分法適用会社に対する持分相当額	0	2
その他の包括利益合計	8	7,364
四半期包括利益	11,456	20,920
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	10,809	20,176
非支配株主に係る四半期包括利益	647	743

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年4月1日至平成28年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	47,510	36,296	28,265	112,072	5,813	117,885	—	117,885
セグメント間の内部売上 高又は振替高	143	0	0	143	84	228	△228	—
計	47,654	36,296	28,265	112,216	5,898	118,114	△228	117,885
セグメント利益	4,619	4,590	5,263	14,474	1,005	15,480	△109	15,371

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△109百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△159百万円、セグメント間取引消去50百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額 (注)3
	機能化学品 事業	医薬事業	セイフティ システムズ 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	49,277	37,218	32,402	118,897	5,901	124,799	—	124,799
セグメント間の内部売上 高又は振替高	141	0	0	141	83	224	△224	—
計	49,418	37,218	32,402	119,039	5,985	125,024	△224	124,799
セグメント利益	6,282	5,962	5,301	17,546	889	18,435	△303	18,132

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグロ事業、不動産事業を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△303百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△372百万円、セグメント間取引消去69百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「機能化学品事業」セグメントにおいて、当第3四半期連結会計期間に、当社の連結子会社である株式会社ボラテクノがRaySpec Limitedの全株式を取得し同社を連結の範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては1,298百万円であります。なお、のれんの金額は当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。